

平成27年度事業報告書

事業の概要

平成27年度は、次の事業を実施した。

1. フォーラム「メンタルヘルスの集い(第30回日本精神保健会議)」の開催

今回の「メンタルヘルスの集い」では精神疾患を持つ人の健康と寿命をテーマに取り上げた。精神疾患を持つ人の寿命が健常者と比較して15年から20年短いという海外のデータが有る。心血管疾患や糖尿病を発症する可能性が2～3倍、喫煙者になる可能性も4倍になっている。こころが健康でないことが身体に健康に目を向けることを難しくし、身体の病気を増やすだけでなく寿命そのものを短くしてしまう場合がある。わが国ではこうした問題はこれまで見過ごされてきたが、精神疾患を持つ人が生き生きとした暮らしを続けていくためには、こころの面だけでなく身体面の健康をどう維持していくかということが世界的に重要なテーマになっている。この問題に取り組んでいくには当事者だけでなく精神科医、看護師、臨床心理士など多くの人の力の結集が重要と考えこのフォーラムを実施した。

実施にあたっては小島卓也(本会理事)を委員長に、羽藤邦利(本会理事)、林直樹(本会理事)、松村英幸(本会理事)近藤伸介(東京大学附属病院精神科)黒川常治(当事者)小笠原勝二(西多摩精神障害者家族会)の各氏に準備委員を委嘱した。

なお、本フォーラムは「平成27年度健康や命を守る医療の活動事業」として公益財団法人JKAより競輪公益資金の補助を受けて実施した。

メンタルヘルスの集い(第30回日本精神保健会議)

日時：平成28年3月5日(土) 10:15～16:00

場所：有楽町朝日ホール(東京都千代田区有楽町2-5-1)

テーマ：精神疾患を持つ人の寿命と健康～生き生きと暮らし続けるために～

内容：特別講演 危機の時代のこころといのち

柳田邦男(ノンフィクション作家・評論家)

：シンポジウム 精神疾患を持つ人の健康と寿命

～生き生きと暮らし続けるために～

シンポジスト

近藤 伸介(東京大学医学部附属病院精神科)

黒川 常治(当事者・ピアカウンセラー)

小笠原勝二(西多摩精神障害者家族会)

矢口 孝子(世田谷区訪問看護ステーション芦花)

コーディネーター

林 直樹(帝京大学附属病院精神科)

大塚淳子（平成帝京大学健康メディカル部）

総合司会 池田真理（東京大学大学院）

参加者：435名

このフォーラムの内容は本会の広報誌「心と社会」164号（平成28年6月発行）に収録する。

2. 精神保健シンポジウムの開催

全国の主要都市において、その地域の大学・精神保健関連団体と共催で、地域が直面する精神保健に関する課題等をテーマにシンポジウムを開催しているが、本年度は下記のとおり実施した。

①第67回精神保健シンポジウム（熊本）

日時：平成27年4月25日（土） 13:00～16:30

会場：くまもと県民交流館パレアホール（熊本市中央区手取本町8-9）

共催：熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野（池田学教授）

テーマ：子どもの発達と情報化社会

：基調講演

「ICTを活かした発達障害の子どもへの教育」

中邑賢龍（東京大学先端科学技術研究センター教授）

「インターネット・ゲーム依存（理解と対応）」

佐久間寛之（国立病院機構久里浜医療センター精神科医長）

：シンポジウム

「情報機器の子どもの発達への影響～医療から～」

田中恭子（熊本大学医学部附属病院神経精神科特任助教）

「熊本県における情報安全教育について」

西村幸樹（熊本県教育庁教育政策課指導主事）

「ICT機器を用いたコミュニケーション指導～療育から～」

下田祐輝（熊本市健康福祉こども局障がい福祉相談所主任）

：パネルディスカッション

座長 城野 匡（熊本大学医学部附属病院神経精神科助教）

参加者：219名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会」161号（平成27年9月15日発行）に収録した。

②第68回精神保健シンポジウム（名古屋）

日時：平成27年9月5日（土） 13:00～16:30

会場：愛知県芸術文化センターアートスペース（名古屋市東区東桜1-13-2）

共催：愛知県精神保健福祉協会（尾崎紀夫会長）

テーマ：生きづらさを抱えた若者たち

内容：基調講演

「今どきの若者かたぎ」

牛島定信（公益財団法人日本精神衛生会理事長）
シンポジウム
「うまく生きられない子どもとその家族」
前田由紀子（愛知県臨床心理士会スクールカウンセラー）
「児童養護問題から－児童虐待とアクション」
喜多 一憲（全国児童養護問題研究会会長）
「ひきこもる若者の現状と課題」
長谷川俊雄（白梅学園大学子ども学部教授）
パネルディスカッション
コーディネーター
竹内 浩（名古屋市立大学大学院医学研究科講師）
尾崎紀夫（名古屋大学大学院医学研究科精神医学分野教授）

参加者：146名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会 162号」（平成27年12月15日発行）に収録した。

3. 広報誌「心と社会」の発行

今日の精神保健福祉が直面する重要課題を取り上げるとともに、国内や海外の精神保健福祉に関する最新情報を掲載した広報誌「心と社会」を次のとおり発行した。

なお161号と162号は「平成27年度健康や命を守る医療の活動事業」として公益財団法人JKAより競輪公益資金の補助を受けて、各600部を追加発行し関連団体・施設等に配布した。

- | | | |
|---|------|--------|
| ①160号（平成27年6月15日発行） | 176頁 | 2,000部 |
| 特集 メンタルヘルスの集い（第29回日本精神保健会議）
「もっと知って下さい！私たちのこと～発達障害者のニーズと理解～」 | | |
| ②161号（平成27年9月15日発行） | 124頁 | 2,600部 |
| 特集 第67回精神保健シンポジウム（熊本）
「子どもの発達と情報化社会」 | | |
| ③162号（平成27年12月15日発行） | 124頁 | 2,600部 |
| 特集 第68回精神保健シンポジウム（名古屋）
「生きづらさを抱えた若者たち」 | | |
| ④163号（平成28年3月15日発行） | 122頁 | 2,000部 |
| 特集 自殺対策基本法成立10周年 | | |

4. 精神保健福祉関係冊子の出版

昨年に引き続き、格差とメンタルヘルスに関連した問題を取り上げる「こころの健康シリーズVI 格差社会とメンタルヘルス」（B5判8頁）を以下のように

に発行した。なお、発行後はホームページに掲載し閲覧できるようにした。

①No.9 長期療養が必要な家庭のメンタルヘルス

～精神障がい者家族の体験から見えること～

さいたま市精神障がい者もくせい家族会 岡田久実子 著

平成 27 年 6 月発行 3,000 部

②No.10 介護職員のためのメンタルヘルス

NPO 法人わかば代表 辻本きく夫 著

平成 27 年 9 月発行 3,000 部

③No.11 女性の貧困とメンタルヘルス

立命館大学産業社会学部 丸山里美 著

平成 27 年 12 月発行 3,000 部

④No.12 「ホームレス」問題はハウジングファーストから

－路上は最悪の場所ではない－

NPO 法人世界の医療団理事・精神科医 森川すいめい 著

平成 28 年 3 月発行 3,000 部

5. 第 7 回国際自殺予防学会アジア・太平洋地域大会及び第 40 回日本自殺予防学会の開催に向けた募金活動

自殺対策基本法施行 10 周年となる平成 28 年に、東京で第 7 回国際自殺予防学会アジア・太平洋地域大会と第 40 回日本自殺予防学会総会が開催される。アジア・太平洋地域の人口は多く、世界の自殺者総数に占める割合も大きい。本会議は、自殺予防対策やその背景にある精神保健の問題、心理社会的問題、教育・公衆衛生等の研究成果や施策を議論するとともに、官民合同の自殺対策基本法制定 10 周年記念国際シンポジウムやいのちの電話連盟国際シンポジウムを行うもので、わが国の自殺予防に寄与する極めて公共性の高いものである。当会は、日本自殺予防学会及び第 7 回国際自殺予防学会アジア・太平洋地域大会組織委員会とともに本会議を共催する。今年度はその開催を支援するための募金活動を実施し、個人・法人合わせて 7,496,000 円のご寄附をいただいた。寄附金募集に係る経費を除いた 7,024,026 円を会議開催のための特定資産として平成 28 年度に繰り越している。

6. 公益社団法人日本精神保健福祉連盟の一員として国内の精神保健福祉諸団体と協力した。また、広報誌「心と社会」の海外ニュース欄にて世界の精神保健関連情報を紹介した。WF MH 日本支部と情報交換を行った。